

地理歴史科(地理総合) 学習指導案

日時：2026 年 9 月 30 日(水)

第 5 校時 13:10～14:00

対象：第 1 学年 C 組

授業者：小林 明日佳

指導教員：栗山絵理先生

1 単元名

第 2 章 地理的環境の特色 第 2 節 気候と生活文化

教科書「地理総合 改訂版 世界に学び地域へつなぐ」(山川出版社)

地図帳「紹介現代地図 改訂版」(山川出版社)

資料集「新編 地理資料 2026」(東京法令出版)

2 単元の目標

①気候と生活文化の関わりについて、東経 60 度以東の地域を事例に、基礎的・基本的な知識を身につけるとともに、資料の読み取りや比較、関連づけなどの地理的技能を育む。

②気候と生活文化の学習課題を追究する過程の中で、地域的な課題と関連する自然環境や社会的環境を多面的・多角的に考察し、その繋がりについて表現できるようにする。

③気候と生活文化の関わりを理解するため、東経 60 度以東の地域における地域的な課題に関心を持ち、意欲的に追究する態度を養うようにする。

3 指導観

(1)単元観

本単元は、高等学校学習指導要領(平成 30 年 3 月)第 2 章、第 2 節地理歴史、第 2 款各科目、第 1 地理総合、1 目標(2)および 2 内容 B(1)ア(ア)(イ)

(2)地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(1) (ア) 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解すること。

(イ) 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解すること。

を受けて設定した。

(1)教材観

この単元では、東経 60 度以東の地域において気候とそこに暮らす人々の生活文化が相互に影響を与えていることを学ぶことができる。地理総合においては、系統的な枠組みの中に各地の地域事例を組み合わせながら現代社会の姿を多角的・多面的に捉えることが求められている。よって、取り上げる地域の中には寒帯から熱帯という様々な気候が見られることを活かし、諸資料の読み取りなどを通して人間と自然環境の相互依存関係について考察できるようにする。

(2)生徒観

本学級の生徒は、基本的な中学校社会科の地理的分野における知識および技能が身に付いているものと思われる。第一時では、カンボジアの景観写真から高床住居の特徴や雨季と乾季による様子の違いを読み取っている姿が見られた。本単元で扱う東経 60 度以東の地域は範囲が広く、地域ごとに特徴的な食文化や住居、衣服文化などが見られる地域である。生徒たちにとって、こうした地域は距離が近く、例えば韓国や東南アジアの食文化などは浸透していることが予想されるが、その一方で、伝統的な住まいや衣服については馴染みがないことが予想される。自然環境においては、雨季と乾季が明瞭な気候が見られる地域があるといった特色があり、降水量や地形などにも影響を与えている。こうした生活文化と自然環境とのつながりがわかる事例を学ぶなかでそれらを比較・考察し、地理的な見方・考え方を育成したい。

3 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア. 東経 60 度以東の地域における自然環境や社会的環境の特色を理解し、それぞれの基礎的・基本的な知識を身につけている。 イ. 東経 60 度以東の地域の地域的特色について情報を収集し、それを基に読み取ったり、関連づけたりしている。	ア. 気候と生活文化のつながりについて、地域的特色と関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。	ア. 東経 60 度以東の地域の自然環境や社会的環境と生活文などの特色について関心を持ち、地域的特色を理解するための学習課題を主体的に追究しようとしている。

4 単元計画

時	各時の主題	各時の問いと主な活動	各時の評価
---	-------	------------	-------

1	熱帯・モンスーンの 影響と人々の生活― 特徴的な住居―	問い：トンレサップ湖で見ら れる住居の特徴とは？ 活動：景観写真や Google Earth のストリートマップから 熱帯やモンスーンが影響する 地域の住居の特色を読み取 り，他地域と比較する	(知・技)ア・イ (思・判・表)ア
2 (本時)	もっと特徴的な住居	問い：なぜ各地で特徴的な住 居が見られるのだろうか？ 活動： ①前時に学んだ高床住居から 広げて東経 60 度以東の地域に 見られる住居の特徴を探る ②住居の特徴と気候の関係を ケッペンの気候区分の考え方 を用いながらまとめる	(知・技)ア・イ (思・判・表)ア
3	伝統的な衣服とこれ からの衣服文化	問い：なぜ東南アジアを中心 にファストファッションが生産 されているのだろうか？ 活動： ①東南アジアの伝統的な衣服 の特徴と気候との関わりにつ いて考察する ②現代のファストファッショ ンについて触れ，東南アジア が生産を担う衣服文化の持続 性を考察する	(知・技)ア・イ (思・判・表)ア (主)ア

5 本時の目標

生活文化の中でも特に住居に焦点を当て，東経 60 度以東の地域の特色に合わせてどのような住居が見られるのか概観する。特徴的な住環境が見られる背景について，ケッペンの気候区分を用いて説明できるようにする。

6 本時の展開

時間	生徒の活動(○活動)	教師の指導・支援
5 分	○前時の復習	・景観写真を使ってどこで撮られた写真か

5 分	・ 前回の授業で紹介した高床住居の写真を見せながらどこの国で見られるのか地図を使って確認する ○ウランバートルのストリートマップを見せ，写真から場所を推測する	を推測させる
10 分	<展開①> ○ゲルの特徴について調べる(3分) ・ 資料集 p.71 を使ってモンゴルの遊牧民の生活について調べる ・ 隣の人とわかったことについて意見交換する(2分) ○ゲルでの生活について動画を視聴して理解する(2分) ○イグルーの特徴について調べる(3分)	・ 現地での様子を，動画を通して理解させる ・ QR コードから資料を読み取らせる
なぜ移動する住居が見られるのだろう？		
25 分	○なぜ移動する住居が見られるのかについて住居の特徴から自分なりの考えをまとめる(5分) <展開②> ○ケッペンの気候区分についてプリントを使って整理する ・ ケッペンが何に注目して気候を分類したか考える ・ 樹林気候と無樹林気候に分類する ○B(乾燥帯),E(寒帯)の特徴を整理する ・ 乾燥帯はステップ気候と砂漠気候に分かれることを資料集から読み取る ・ なぜ砂漠とステップで分かれ	・ ドイツ人のケッペンによる区分であることを板書しながら整理していく ・ 地図帳 p.17,18 を見ながら気候区分が大きく5つに分かれていること ・ 景観写真を使いながら植生に注目させる ・ 年降水量の違いを雨温図から読み取らせる

	る？	
5 分	○なぜ世界では多様な住居が見られるのかについて考えをまとめる	・気候の違いが多様な住環境をもたらしていることを確認させる

板書計画

Ⅱ ○ゲル 年降水量200mm ・遊牧民の家 ・移動式住居 ・季節によって場所を変える ・動物を放牧しながら草を求めて移動 ○イグルー ・イヌイットが暮らしている ・アザラシ猟のための家 ・数日ごとに移動 ⇒農耕に向かない環境 牧畜のために移動できる住居	Ⅲ ケッペンの気候区分 熱帯 乾燥帯 温帯 冷帯(亜寒帯) 寒帯 ・植生に着目 ⇒無樹林気候と樹林気候に分ける
--	---

参考文献・資料

- ・金岡秀郎(2000)『モンゴルを知るための 65 章』明石書店
- ・布野修司(2005)『世界住居誌』昭和堂
- ・大和ハウス工業株式会社「世界の環境共生住宅 Vol.2 雪の家、イグルー(カナダ北部)

<https://www.daiwahouse.co.jp/sustainable/eco/column/world/canada.html>

2026/09/28 閲覧

- ・テレビ長崎「モンゴル取材記③その 2 遊牧民の移動式住居「ゲル」は想像を超えていた！」<https://www.ktn.co.jp/mottele/2026/04/2-7.html>

2026/09/29 閲覧

- ・帝国書院「動画写真ライブラリー：世界の写真」

https://www.teikokushoin.co.jp/photos/world_photo/

- ・東京法令出版(2026)『新編 地理資料』

- ・ 山川出版社(2026)『地理総合 改訂版』
- ・ 山川出版社(2026)『詳解現代地図 改訂版』